

俳句文学館

発行所

社団法人
俳人協会

東京都新宿区
百人町3-28-10
郵便番号160
電話(03)367-6621
(代)
発行人 草間 時彦
定価 100円(送料別)
(年1,000円
送料 300円)
振替口座
東京6-273番

第16回 昭和61年度通常総会開く

懇親会も盛大に行う

協会創立二十五周年記念で

社団法人・俳人協会の昭和六十一年度(第十六回)通常総会と俳人協会賞・新人賞の授賞式ならびに協会創立二十五周年記念懇親会が、春日和の二月二十六日、東京・新宿の京王プラザホテルで盛況に行われた。



議長代行を勤める澤木欣一副会長。第五代会長に。

この日の東京は多少雲はあつたものの、いかにも早春らしい天候、早くから会員の参集した会場錦の壇上には金屏風がしつらえられ、フリ―シアや山菜類などの盛花が春の香を漂わせる。

【関連記事2面にも】

二月の総会ではからずも協会会長を引き受けられることになりました。浅学非才、いたらないものですが、誠意をもって協会の発展に尽くしたい所存です。よろしくお願ひ致します。協会は創立二十五周年を迎え、目下記念行事が各地で催されつつありますが、盛大かつ有意義に遂行されることを願っております。二十五周年を機に協会は、まわりも大きく発展し、同時に質的に充実しなければならぬと存じます。日本文学の歴史の上で、現在ほど俳句の隆盛な時代はなかったといつてよいでしょう。また俳句は今や日本を代表する文化の一つとして世界中から注目を集めております。今後とも皆様の絶大なご支援とご指導を切に願ひ致します。

ご挨拶

澤木 欣一

全員が起立、一分間の黙祷を捧げる。ここで司会者から総会の成り立ちが宣せられ、澤木欣一副会長が議長席に着き議事に入る。

議案審議

これより議案審議で、第一号議案「昭和六十二年度事業報告」については、村田脩理

事から「事業計画の柱は前年にならつては、各事業は二十五周年の記念行事といふことを付加して計画された。講演と俳句の会は札幌、仙台など七都市での開催が決まり、講師の派遣も内定している。講座も春秋行つこととし、春は協会の役員をされたら、水原秋桜子、富安風生ら十氏について講座を開く予定、秋は夜間に古典の講師をから詳しい決算の内容と会費滞納者除名の件について報告がある。

この決算内容に対して、島村茂雄監事から「適正と認め」と監査報告が行われた。

第二号議案「昭和六十二年事業計画案」と「予算案」については、まず鷹羽狩行理

事から「事業計画の柱は前年にならつては、各事業は二十五周年の記念行事といふことを付加して計画された。講演と俳句の会は札幌、仙台など七都市での開催が決まり、講師の派遣も内定している。講座も春秋行つこととし、春は協会の役員をされたら、水原秋桜子、富安風生ら十氏について講座を開く予定、秋は夜間に古典の講師をから詳しい決算の内容と会費滞納者除名の件について報告がある。

この決算内容に対して、島村茂雄監事から「適正と認め」と監査報告が行われた。

満場一致で原案を承認

役員改選は議長一任で

活発な質疑応答

まず有働亨氏が起つて「文化庁等主催の国民文化祭に予算の計上がないのはなぜか」と質問。議長は「国民文化祭に「会員名簿は誤植のないよう」に努めてほしい」と質問と要望。草間理事長から「国民文化祭にこのくらいの額が必要かまたはつきりしないが、前は諸経費から支出できる程度のものでした。名簿はミスプリントのないよう極力注意したい」と回答があった。

これらに対して担当役員からそれぞれ説明があり、質問者了承。ここで「二、二号議案」について採決に入り、満場一致で原案どおり承認され、総会は無事終了した。

澤木氏が会長に

午後三時五十分再開。草間理事長から新役員の内閣が発表される。俳人協会の第五代会長に澤木欣一氏が就任、その他別掲のとおり新役員が発表された。午後四時総会は無事終了した。

新理事の選任も

次いで第三号議案として定款第十六条の規定による「役員改選に関する件」がはかられたが、議長一任の発議があり、全員拍手で賛成する。

花は見事なトネルをつくり、その下を川が貫く。花咲かす。誓子先生の句碑を建てた福玉精緻倉庫会社は、この川の流を引き水車で製粉業を営んでから百年になる。庭に黒龍王という碑が立つ。堤には桜並木。愛知用水路は尾張富士を貫き、本宮山の裾まで入鹿水路橋として南下。この水路橋の下を道路がくぐり、その道路に入鹿池から出てくる幼川が沿い、これは新郷瀬川として北西の木曾川に注ぐ。五條川は新郷瀬川の途中に分れ尾張平野を南下し新川に注ぐ。入鹿池は周囲約十二軒、寛永村人、六人衆と呼ばれた日本屈指の灌漑用水池、明治村からも眺められる。入鹿池から出る川が五條川ならこの池が水源だが、この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。

この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。入鹿池は周囲約十二軒、寛永村人、六人衆と呼ばれた日本屈指の灌漑用水池、明治村からも眺められる。入鹿池から出る川が五條川ならこの池が水源だが、この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。

この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。入鹿池は周囲約十二軒、寛永村人、六人衆と呼ばれた日本屈指の灌漑用水池、明治村からも眺められる。入鹿池から出る川が五條川ならこの池が水源だが、この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。

第二十六回 全国俳句大会御案内

俳人協会主催(朝日新聞社後援)の全国俳句大会は俳壇の主な結社が合同して、しかも全国的な規模で行う俳句大会です。奮ってご応募願ひます。

- ◆募集 二句一組(雑詠・未発表のもの・二百字詰原稿用紙使用)何組にても可
- ◆会費 一組につき千円(現金書留又は小為替)
- ◆締切 五月二十五日(当日消印有効)
- ◆送付先 〒100東京都新宿区百人町3-28-10 俳人協会「全国俳句大会係」
- ◆選者 阿波野青歌・山口青柳・山口誓子・中村汀女・平畑静塔・安住 敦・有馬壽子・井沢正江・石原八束・上田五子石・加倉井秋を・角川春樹・神威 器・岸田雅魚・木村蕪城・清崎敏郎・草間時彦・小林康治・後藤比奈夫・香西照雄・澤木欣一・進藤一考・杉山岳陽・鷹羽狩行・滝 春一・千代田葛彦・成瀬櫻桃子・野沢瀧子・能村登四郎・橋本篤二・原 裕・福田夢行・古館晋人・細見綾子・堀口星眼・松崎鉄之介・皆川盤水・宮下翠舟・村田 脩・森田時
- ◆発表 九月十二日(土)午後一時より(入場無料)有楽町朝日ホール・東京都千代田区有楽町二一五(有楽町線)セントビル十一階(国電有楽町駅・地下鉄銀座駅下車)
- ◆賞 入賞者には俳人協会全国俳句大会賞・各選者の特選句には賞品
- ◆講演 久保田 淳
- ◆募集 選者の一部で予選を行ない、大会終了後一月以内に応募者全員に入選作品集をお送りします。会費の受領証は発行しません。
- ◆種類 類句については賞を取消することがあります。☆なお、大会当日参加者より一句を募集、出席者数名による選を行ない、特選句には賞を呈します。(投句一切一時半・会費無料)

昭和 六十二年 四月
主催 社団法人 俳人協会
〒100 東京都新宿区百人町3-28-10 俳句文学館内
TEL 〇三三六七二六六二二
後援 朝日新聞社

俳人協会 新役員一覧

会長	澤木 欣一 (新任)
副会長	福田 夢汀 (新任)
理事	松崎 鉄之介 (新任)
理事	後藤 比奈夫 (新任)
常務理事	草間 時彦
理事	古館 晋人 (新任)
理事	香西 照雄 (新任)
理事	進藤 一考 (新任)
理事	柳田 静爾
理事	原 裕
理事	村田 脩
監事	島 皆川
監事	大 山
監事	水 崎
監事	角 原
監事	井 川
監事	成 沢
監事	堀 正
監事	清 桜
監事	森 星
監事	田 敏
監事	崎 郎
監事	嶋 時

▲五條川の櫻の花は見事なトネルをつくり、その下を川が貫く。花咲かす。誓子先生の句碑を建てた福玉精緻倉庫会社は、この川の流を引き水車で製粉業を営んでから百年になる。庭に黒龍王という碑が立つ。堤には桜並木。愛知用水路は尾張富士を貫き、本宮山の裾まで入鹿水路橋として南下。この水路橋の下を道路がくぐり、その道路に入鹿池から出てくる幼川が沿い、これは新郷瀬川として北西の木曾川に注ぐ。五條川は新郷瀬川の途中に分れ尾張平野を南下し新川に注ぐ。入鹿池は周囲約十二軒、寛永村人、六人衆と呼ばれた日本屈指の灌漑用水池、明治村からも眺められる。入鹿池から出る川が五條川ならこの池が水源だが、この池に北から注ぐ川に五條川というのがある。

俳句文学館臨時休館のお知らせ
来る5月13日(水)・15日(金)は、俳人協会職員慰安旅行のため、臨時休館とさせていただきます。16日(土)より平常業務となります。

俳句文学館 俳人協会

協会賞・新人賞授賞式

十分間の休憩のち第二十
六回俳人協会賞と第十回俳人
協会新人賞の授賞式となる。
ステージ左側の席に晴れの
受賞者三氏の顔が並び、司会
の島山護二幹事のよく透る声
が場内に昂揚した気分を誘
う。まず、安住会長から協
会賞の森田氏、新人賞の大

- 俳人協会
新任追加役員**
- | | |
|------|--------|
| 顧問 | 安住 敦 |
| 名譽委員 | 滝 春一 |
| 同 | 及川 貞 |
| 同 | 太田 鴻村 |
| 同 | 桜木 俊晃 |
| 同 | 能村 登四郎 |
| 同 | 長谷川 双魚 |
| 同 | 細見 綾子 |
| 同 | 百合山 羽公 |

自然体で俳句生活

佐久間慧子さんといえは
誰しもふつとらした色白
で、いつもにこにこした顔
を印象づけられていること
であろう。どちらかとい
うとあどけない感じの慧子さ
んの、上の台息は社会人、
下のお嬢さんはずに結婚

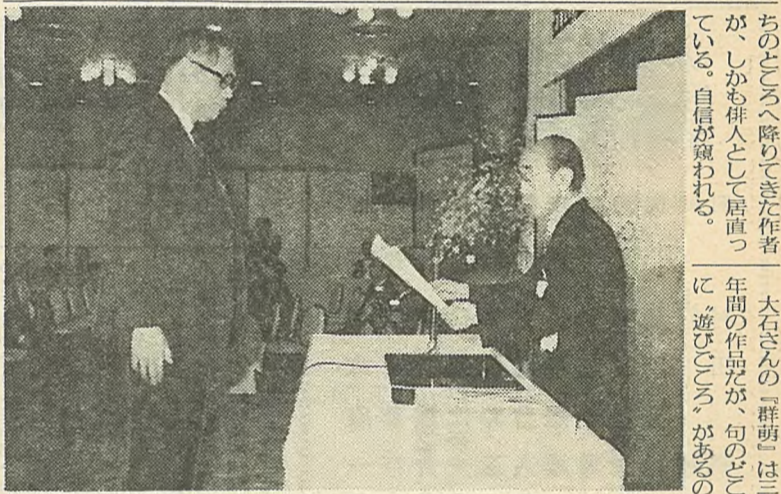


**第10回俳人協会新人賞
佐久間慧子**

「森田さんは俳人協会関西
支部の事務所長として、協会
の運営にも尽力頂いて、協会
が、実作者として活躍の
ことは皆さんご承知のこと
です。写真は雄として知ら
れ、作風は極めて純粋、選ば
れる言葉は平明である。
協会と枯木ペン画のごとき
かな」

「白眉だと思ふ。
炎天の白霞々の塩潮かな
逆潮の白一線や霞くもり
これを機に一層の発展を
願う」と祝う。
代わって原裕氏から新人賞
の女流二氏へお祝いの言葉。
「私はお二人とも推した
が、まず佐久間さんの『無伴
奏』について言えば、初期の
作品にはカトリックの言葉が
随所に出てやや馴染みにくい
面があったが、句集の後半に
なると、私たちの日常語で確
かな句作りが為されている。
彫金のごとき玉虫拾ひけり
春眠や天の岩戸に響るかに
これらの句、いずれもおお
らかに楽しい。自分の心を授
け込んでいます。単なる才で
作れる句ではない。
俳人として椅子にあり復活
祭
ストイックな世界から私た

「尾を釣上げたそらだ。
昭和三十八年『かつら
歌われお姉さんはウァイ
オリン、弟さんは教師とい
つたふりに音楽好きの一家
であった。慧子俳句の雰囲
気といものがおのずと理
解されることと思う。
夫君はスポーツマン。只
今は釣マニアで主として溪
流釣であるが機軸もする。
慧子さんもなかなか腕
前、昨年の秋は小輪七十



安住会長から協会賞を受ける森田氏

ちのごとくへ降りてきた作者
が、しかも俳人として居直つ
ている。自信が窺われる。
大石さんの『群萌』は三十
年間の作品だが、句のどこか
に、遊びごころ、があるのが
特色である。
芦刈の眉目佳きはみな男な
り
葛切てふうさんくさきを食
べにけり
霜月や去年知らざりし遊び
遊びを句の中に読み込むと
ともに、表現の上での試みも
深くなっている。
お二人に共通して言えるこ
とは、俳句で人生を詠う。私た
ちの世代から一つ越えた、遊

びごころ、である。第十回の
新人賞という面目にふさわし
く、新生面の開拓を期待した
い」と祝福。
最後に受賞された方からの
謝辞があつて授賞式を終わ
る。ここで退任される安住敦前
会長へ町草草さんから花束が
贈られる。一同盛大な拍手で
を閉会した。

高し香りをといて、昨秋、
短詩文学愛好会懇談
会、を設立し、会長に藤波孝
生氏、私が幹事を務めている
が、私は川柳をやっているが
子規を生んだ愛媛の出身、自
分だけてなくみんなて乗しめ
る短詩型文学を国会の中にも
育てて行くつもり」と述べ
る。
次に文化庁長官の大崎仁氏
は「文化庁は昨年、国民
文化祭、を主催しており、今
年は熊本県で開くことになつ
ている。この企画、実行につ
いては俳人協会に多大のご協
力を頂いているが、本年もよ
ろしくお願いしたい。協会の
一層のご発展をお祈りする」
と挨拶。
続いてお茶の水女子大学名
誉教授井本農一氏から「二十
五年間の俳人協会の歴史はそ
のまま俳壇隆盛の歴史であ
り、日本の文化に寄与したと
ころ大きい。澤木新会長の誕
生は水が低きにつくようにま
ことに自然、ひと言お願いす
れば、俳句はもとど在野の
精神で出発したもので、これか
らの協会運営にあたって、
そうした気持をどこかに残し
ておいて頂きたい」と祝辞を
頂戴する。
こうして一同の気分の盛り
上つたところで、現代歌人協
会理事長近藤芳美氏の発声で
乾杯。盃をあげるにあつて
氏から、戦後間もない俳句第
二芸術論の出た頃の金沢で、
澤木会長と一夜文学を語り合
つた思い出などが披露されて
感慨を誘った。

祝宴に入るとミモザやクラ
ジオラスの美しく飾られた中
央のテーブルを囲んで談話の
渦があちこちにでき、カメラ
を構えて記念のスナップを撮
り合う人も多く見受けられ
た。
やがて七時半、司会の高木
良多幹事による中締めがあつ
た後も、名残を惜しむ人たち
で会場はなお賑わっていた。
(二宮 耕作)

三百数十名で埋まる 来賓に文化庁長官ら エミネンスホールで祝賀会



「在野の精神を」と挨拶する井本氏



盛大な25周年記念の祝賀パーティー

午後六時、会場を五階エミ
ネンスホールに移して「俳人
協会創立二十五周年記念懇親
会」が開かれる。来賓、会員
三百数十名が広間を埋め、
いかに記念祝賀会にふさわ
しい。
司会を高木良多幹事。
最初に澤木欣一、新会長が盛
んな拍手に迎えられて上手マ
イクの前へ。場内の燈が一斉
に輝きを増す。新会長は「本
日不肖私が会長に選ばれた
が、皆さん方のお力を借りて
この大任を果たしたい。会員
三十数名で発足した協会はい
まや会員数八五〇〇に近づき
つつある。俳句ブームという
のは嫌な言葉だが、俳句への
関心がこれだけ深まったとい
うことであろう。これからは
俳句の質を高めること、地
方の俳句界の振興に力を尽し
て行きたい」と挨拶。
続いて来賓から祝辞を頂
く。最初に参議院議員仲川幸
男氏が「国会の中にも文化の

山本有三生誕百年記念
全国俳句大会作品募集

日時 昭和62年8月30日(日)午後1時
場所 栃木市文化会館(栃木市旭町)
作品 二句一組(雑詠・未発表)
二百字詰原稿用紙使用のこと
送付先 干瀧栃木市万町・栃木市教育委員会内
送付料 一組一〇〇〇円(何回でも可) 作品に同封
投句先 (電話)〇二八二二(三五三五)
投句 5月15日締切(当日消印有効)
講演 金子兜太(現代俳句協会会長「海程」主宰)
選者 飯田 龍太・金子 兜太・桂 信子
澤木 欣一・鷹羽 狩行・平畑 謙塔
相葉有流・石田三省・松本夜詩夫・吉田未灰
・今瀬剛一・海老根鬼川・島崎専城・関由紀
子・向井秀・佐藤千城・佐々木麦童・手塚七
木・橋本昭次・水沼三郎・松原南斗星・大木
石子・加藤洋・六角文夫・伏見翠草・増山美
島・桑原月穂・桑原まき子・小林昌穂・火村
卓造・石田よし宏・館野たみを・鈴木一陽・
山中晴月・青木瓢子・土屋石羊・中島大三郎
・村松正明
※大会賞・栃木県知事賞・栃木市長賞は多数、選者
の色紙。
※入選作品集は応募者全員に送付します。大会前日の
宿泊を斡旋いたします。
主催 山本有三記念会・栃木市俳句協会
後援 栃木県・栃木県教委・栃木市・栃木市教委
栃木市文化協会・栃木県俳句作家協会

九月に全国俳句大会

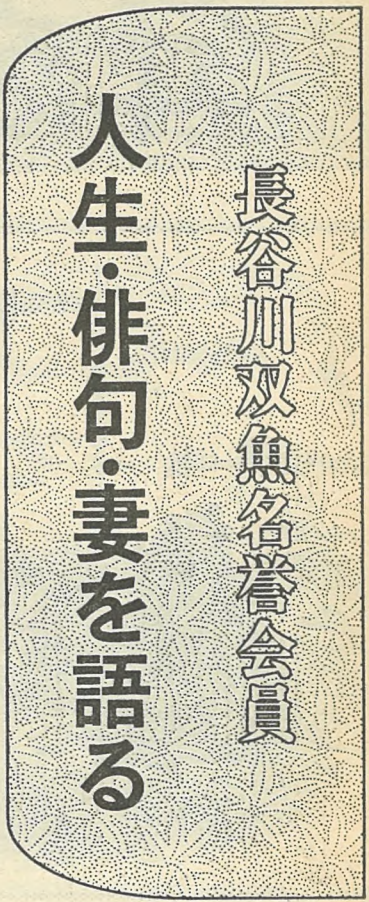
原白帆・橋正善・安立公彦・木村幸休・鈴木栄子

常任幹事を増員

当日句 (角南星燈)

「花と緑に親しむ運動」

長谷川双魚名譽會員 人生・俳句・妻を語る



庭に積った雪を見ながら、長谷川双魚氏は静かに来し方を語りました。教員生活のこと、俳句との出会い、そして久々子さんのこと。聞き手は松井利彦さんです。

二十歳でイン ドの支店長に

松井 大変な雪で、市内四十五、六センチ。市外では六十七センチの積雪です。風邪の方は、もう、よくなりましたか。
双魚 一応、この程度に直りました。
松井 東海短大以来、随分長いお付き合いのことになりますね。長寿と「青樹」の発展、俳句の大成いろいろな点でよい年になられたと思えます。
双魚 ありがとうございます。

とき 3月初旬
ところ 長谷川双魚氏宅
(岐阜市初音町)
きき手 松井 利彦

松井 インドにいられたのですが、そのきっかけは。
双魚 親類のものが貿易商をやっていたので、インドの支店長をやらんかというので、二十歳でしたよ。楊井という店。店長ですから、雑事はせず、夜はY.M.C.Aで英語の勉強をし、ボンベイ大学の聴講生になったりして、英語を勉強しました。

松井 生きた英語を習われたのですね。
双魚 それから一度、故郷にもどり、旧制の中等教員の資格をとり、福井中学に奉職し、それから朝鮮の中学に移りました。

松井 京城の中学の時、京城帝大にいられた高木市之助先生に会われたというの、どういふお話をされたのですか。
双魚 あれは、高木先生が大学予科の教授をしていられた頃だったと記憶しています。

松井 京城中学では、一年生を引連れて大学の授業参観に出かけるという慣例があり、それで高木先生をお見受けしたというのです。親しくお話をすると、お教養を受けるというところはなかなか、何れもお目にかかるという機会を得ました。

松井 内地の中学では、味わえない学問の雰囲気に触れることができたと思っております。
松井 朝鮮では、かなり高収入であったということをお聞かしております。



聞き手 松井利彦氏

双魚 そうです。向うの中学に移りましたら、たちまち月給が六割上がりました。それで貯金をして、五、六万円貯めておりましたが、戦後のインフレでたちまち使い果したということになりました(笑)。

高等教員の有 試験定に合格

松井 インドにいられたのですが、そのきっかけは。
双魚 親類のものが貿易商をやっていたので、インドの支店長をやらんかというので、二十歳でしたよ。楊井という店。店長ですから、雑事はせず、夜はY.M.C.Aで英語の勉強をし、ボンベイ大学の聴講生になったりして、英語を勉強しました。

松井 生きた英語を習われたのですね。
双魚 それから一度、故郷にもどり、旧制の中等教員の資格をとり、福井中学に奉職し、それから朝鮮の中学に移りました。

松井 京城の中学の時、京城帝大にいられた高木市之助先生に会われたというの、どういふお話をされたのですか。
双魚 あれは、高木先生が大学予科の教授をしていられた頃だったと記憶しています。

松井 京城中学では、一年生を引連れて大学の授業参観に出かけるという慣例があり、それで高木先生をお見受けしたというのです。親しくお話をすると、お教養を受けるというところはなかなか、何れもお目にかかるという機会を得ました。

松井 あの雑誌は、昭和三十年まで私が出していたのです。「馬酔木」の投句者であった白井茂生さんから二つの雑誌らしい体裁にして下さい」と頼まれお引き受けし、手はじめとして三十二頁立ての雑誌にしたのです。最初は、四頁か八頁で茂生さんが出していられた。三十二頁にしたら大変に喜ばれた。そのうちに茂生さんが癌になられた時、青樹さんが東京へ見舞にゆかれ、強引に自分がやると言われたのです。争うのは不愉快ですので、青樹さんのものになった訳です。随分と大きくされたことを喜んでいました。私がやつたら三十二頁位かもしれませぬよ(笑)。

松井 そうですね、そういう「青樹」前史は知りませんでした。私自身としては、「青樹」を主宰したということ、大きなプラスでした。主宰者としての力量を備えなくてはという気構えをもつようになったからです。

松井 戦後、昭和二十二年に飯田蛇笏さんが岐阜へ来られましたね。確か岐阜公園の近くの地蔵寺で句会がありました。あの時、同行の若い人が石原八東さんであったことを後で知ったのですが、蛇笏さんの横に朝風さん。正面右手の方に座っておられましたよ。

松井 戦後、昭和二十二年に飯田蛇笏さんが岐阜へ来られましたね。確か岐阜公園の近くの地蔵寺で句会がありました。あの時、同行の若い人が石原八東さんであったことを後で知ったのですが、蛇笏さんの横に朝風さん。正面右手の方に座っておられましたよ。

松井 私私東海女子短大に勤めた時、お隣の部屋、先生は左手、私は右手の国文研究室でした。健脚で確か三半口位の道を歩いて帰られましたね。双魚 歩くのは、僕の健康法の一つです。私、私もよく歩きました。

松井 余の俳句話もしませんでしたね。「青樹」を継がれたのは何年でしたか。
双魚 あれは昭和四十六年です。癌で臥ついていた木下青樹さんが「青樹」を引き受けてくれということを引き受けました。

松井 あの雑誌は、昭和三十年まで私が出していたのです。「馬酔木」の投句者であった白井茂生さんから二つの雑誌らしい体裁にして下さい」と頼まれお引き受けし、手はじめとして三十二頁立ての雑誌にしたのです。最初は、四頁か八頁で茂生さんが出していられた。三十二頁にしたら大変に喜ばれた。そのうちに茂生さんが癌になられた時、青樹さんが東京へ見舞にゆかれ、強引に自分がやると言われたのです。争うのは不愉快ですので、青樹さんのものになった訳です。随分と大きくされたことを喜んでいました。私がやつたら三十二頁位かもしれませぬよ(笑)。

松井 そうですね、そういう「青樹」前史は知りませんでした。私自身としては、「青樹」を主宰したということ、大きなプラスでした。主宰者としての力量を備えなくてはという気構えをもつようになったからです。

松井 戦後、昭和二十二年に飯田蛇笏さんが岐阜へ来られましたね。確か岐阜公園の近くの地蔵寺で句会がありました。あの時、同行の若い人が石原八東さんであったことを後で知ったのですが、蛇笏さんの横に朝風さん。正面右手の方に座っておられましたよ。

松井 私私東海女子短大に勤めた時、お隣の部屋、先生は左手、私は右手の国文研究室でした。健脚で確か三半口位の道を歩いて帰られましたね。双魚 歩くのは、僕の健康法の一つです。私、私もよく歩きました。

松井 余の俳句話もしませんでしたね。「青樹」を継がれたのは何年でしたか。
双魚 あれは昭和四十六年です。癌で臥ついていた木下青樹さんが「青樹」を引き受けてくれということを引き受けました。

松井 あの雑誌は、昭和三十年まで私が出していたのです。「馬酔木」の投句者であった白井茂生さんから二つの雑誌らしい体裁にして下さい」と頼まれお引き受けし、手はじめとして三十二頁立ての雑誌にしたのです。最初は、四頁か八頁で茂生さんが出していられた。三十二頁にしたら大変に喜ばれた。そのうちに茂生さんが癌になられた時、青樹さんが東京へ見舞にゆかれ、強引に自分がやると言われたのです。争うのは不愉快ですので、青樹さんのものになった訳です。随分と大きくされたことを喜んでいました。私がやつたら三十二頁位かもしれませぬよ(笑)。

松井 そうですね、そういう「青樹」前史は知りませんでした。私自身としては、「青樹」を主宰したということ、大きなプラスでした。主宰者としての力量を備えなくてはという気構えをもつようになったからです。

松井 戦後、昭和二十二年に飯田蛇笏さんが岐阜へ来られましたね。確か岐阜公園の近くの地蔵寺で句会がありました。あの時、同行の若い人が石原八東さんであったことを後で知ったのですが、蛇笏さんの横に朝風さん。正面右手の方に座っておられましたよ。

あなたの作品をいつまでも……
「オリジナル・レリーフ」
句作の楽しみを、より深くしていただくために、あなたの作品をそのままに特殊鋳造方式によるレリーフにしてみませんか。
代表句や入選句をすっきりとした重厚な質感と仕上がりでオリジナル・レリーフとしていつまでもお楽しみいただけます。壁面掛けや置物に、また記念の品として贈答用に喜ばれています。

オリジナル・レリーフ
色：シルバー／ゴールド

価格 (色紙大・265×235mm) 一五、〇〇〇円
(母型代を含みます)
二枚目より一枚 一五、〇〇〇円
※尚、母型は一年間保管いたしますので、追加注文もご利用いただけます。サイズは他に色紙小(135×125mm)、短冊もご用意しています。

発売以来大好評を賜っており「オリジナル・レリーフ」の専門窓口をこの度「渡辺事務所」として新設致しました。つきましては、お問合せ先は左記の事務所にお問い合せください。
お問合せ・申込み先 渡辺事務所
〒160 東京都新宿区西早稲田2-19-16
メゾン・アライヤマ106 03-207-7364

文章に、挨拶に——
名歌・名句
活用辞典

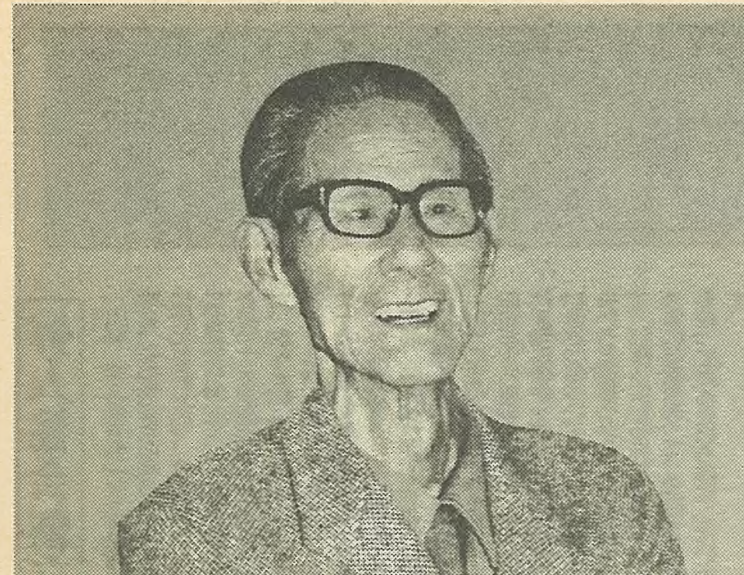
【編集】 沢木欣一・野元菊雄・佐佐木幸綱
B6判・上製本・402頁・定価2,000円(税別)

※名歌・名句一〇八八句を歳時記の季語毎、横な慶弔のケース別、行事別等に分類し、日常の会話やスピーチ、手紙、演説等目的に応じいつでも引き出せるように工夫したユニークな辞典。

※作品は原文に則してそのままの味わいを残し、口語訳と解説は簡潔に的確、短歌・俳句は2冊分の鑑賞辞典として利用度も倍増。

※巻末の作者別索引により、好きな作家の作品が即座に引けて楽しめる。

株式会社 若原ひさひ
本社 東京都中央区銀座7-2-10
営業所 東京都新宿区西五軒町3-2-11
電話 (03) 363-2111(代) 広告部 363-2112



「妻に助けられて」と語る長谷川双魚氏

松井 京城の中学の時、京城帝大にいられた高木市之助先生に会われたというの、どういふお話をされたのですか。
双魚 あれは、高木先生が大学予科の教授をしていられた頃だったと記憶しています。

松井 京城中学では、一年生を引連れて大学の授業参観に出かけるという慣例があり、それで高木先生をお見受けしたというのです。親しくお話をすると、お教養を受けるというところはなかなか、何れもお目にかかるという機会を得ました。

松井 私私東海女子短大に勤めた時、お隣の部屋、先生は左手、私は右手の国文研究室でした。健脚で確か三半口位の道を歩いて帰られましたね。双魚 歩くのは、僕の健康法の一つです。私、私もよく歩きました。



文章に、挨拶に——
名歌・名句
活用辞典

【編集】 沢木欣一・野元菊雄・佐佐木幸綱
B6判・上製本・402頁・定価2,000円(税別)

※名歌・名句一〇八八句を歳時記の季語毎、横な慶弔のケース別、行事別等に分類し、日常の会話やスピーチ、手紙、演説等目的に応じいつでも引き出せるように工夫したユニークな辞典。

※作品は原文に則してそのままの味わいを残し、口語訳と解説は簡潔に的確、短歌・俳句は2冊分の鑑賞辞典として利用度も倍増。

※巻末の作者別索引により、好きな作家の作品が即座に引けて楽しめる。

株式会社 若原ひさひ
本社 東京都中央区銀座7-2-10
営業所 東京都新宿区西五軒町3-2-11
電話 (03) 363-2111(代) 広告部 363-2112

年を振り返って...

俳人協会創立

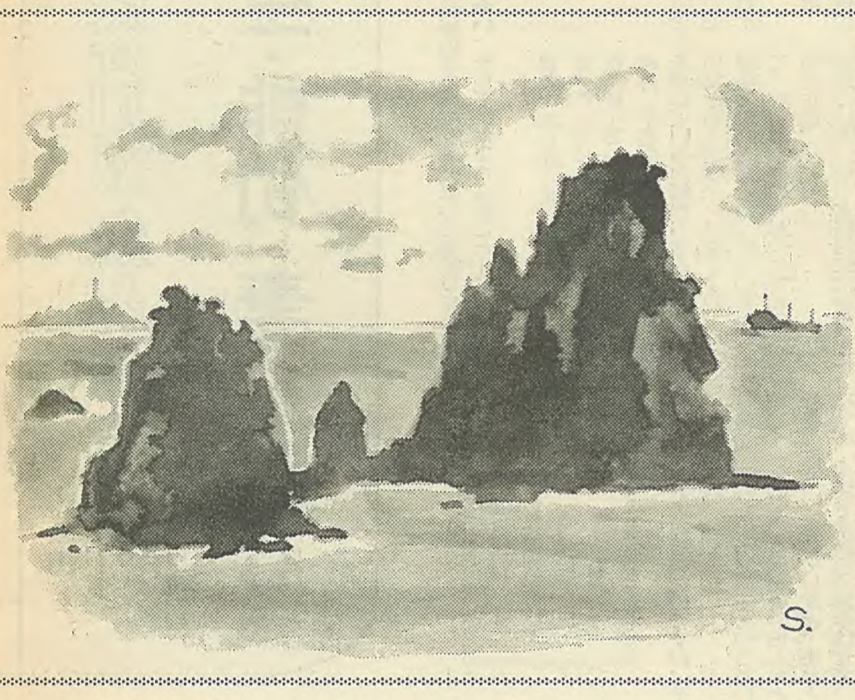
山崎 俳人協会も二十五を迎えて、昨日、その総会と記念パーティーが盛大に行われましたが、今日は関係のかたにお集まり願って、二十五の歩みを振り返って座談会をすることにしました。お手許に「俳人協会二十五の歩み」アルバムと「俳人協会二十五小史」とが届いておられます、これを中心にお話を発展させていただきます。

草間 俳人協会ができてから、いろいろのことがある、石川桂郎さんを「賞」にするかしないかをきつかけ、昭和三十六年の十一月に、俳人協会が現代俳句協会から独立したわけですが、そのいきさつについては、我々が憶測でもいろいろ聞道つから、ここでは触れないで、現存しているしるしから今のうちにお話を伺って、それをテープでも取っておくという形にしたいものです。

見市 そのですね、皆さしつ二エナンスが違いますからね。
山崎 アルバムの昭和三十七年のところに「俳人協会第一号」というのが載っていますが、そのころのことを草間、そこに「俳人協会清規」というのが載っています。
「本協会は会員相互の信頼と良識によって親睦をはかることを、俳句の伝統を基盤としてその正しい発展に寄与することを目的とする」
現在、八千人を超える会員数になりましたけれど、俳人協会のバックボーンになる精神はこれにあると思います。
山崎 その年に、第一回の全国俳句大会が行われておられますね。
岡田 当時、田村町の日産館の福田塾、汀先生の事務所が秋元さんが見えて、ほんとうに熱心に細かくてまで計画を立てておられました。このとき、草野心平さんに講演依頼をされたのは角川さんでしようが、最初の大会は、生みの苦しみみたいなもので、当時の幹事のかたがたはそこを真剣でした。

関西の始動

山崎 その年の十一月二十四日には、やくも「関西講演会」をやりましたね。
見市 これはほとんど東京の企画であったと思います。私も出ていないんです。



S.

事務所の変遷

山崎 このころは俳人協会の具体的な事務はどこでやっていたんですか。
岡田 角川書店の源義さんの社長室に俳人協会の事務所があった、幹事会も角川書店の中で行われていたんです。
草間 角川書店の中でできないときは大松園とか大神宮でした。第一回の全国大会のときの投句は秋元さんのところで受けていた。秋元さんが開封する中から百円札がワウワウ出てきて、家の中が百円札臭くなっちゃったという話があるんです。その百円札を何万円か持って銀行へ行ったら、銀行で怪しまれちゃって、お宅は何の商売をやっているの、銀行から調べに来た(笑)。私がしゃべるとあまり面白くないけれど、秋元さんが一杯飲みながら話をすると実にうまかった。

山崎 当時庶務料は百円だったんですか。
岡田 たしか三句三百円だったと思う。そのころの事務は清水恒子さんが一手に引き受けていたという時代ですね。
山崎 そうすると事務所の移遷は、角川書店からどこへ移ったんですか。
岡田 とにかくいつまでも角川書店の中にあってはいけないんだというので、

独立させていく……。
草間 昭和四十一年に渋谷の、堀番人さんの「日本デザインスクール」に間借りすることになったんですが、郵便の受付と、幹事会をそこで開かしてもらおうというだけで、それから四十三年に自由が丘、四十四年の暮に日吉と事務所を置いていく。

現代俳句選集

山崎 現代俳句選集の第一集に着手したのは三十八年です。
岡田 出たのは三十九年ですね。
見市 これもなかなか出なくて、香西さんが手一いつになつて、草間さんや私なんかがお手伝いしてやっていたんですけれど、最後は草間さんが結局……。
草間 いや、角川さんですよ。角川さんが一人で行ったんです。
山崎 亡くなった秋元清澄さんなんかも、その時代に手伝わられたわけですね。
岡田 清澄さんは誠実な方なので、よく手伝っておられました。現代俳句選集第一集の校正は、ほとんど、角川書店の社長室でやりました。



山崎ひさを氏

山崎 現代俳句選集第一集は集録三百二十七人ですから、今の選集を思えば隔世の感がありますね。
草間 一人三冊ずつ買われましたね。
岡田 俳人協会会報にも載ってますけど三冊抱かせるのは何事だ」というような投句がきたり……。
見市 二冊千円で、そのころは高かったですからね。
草間 とまかく千部作らなきゃペイしない。会員三百何人では、どうしても一冊三冊引き受けて貰わなきゃならなかったんです。

関西俳句大会

山崎 第一回関西俳句大会を開くまでのお話はいかがですか。
見市 三十八年に関西大会の打合せをしたという記録があります。爽雨さん桂郎さん源義さんがお見えになって関西のスタッフが集まって、まず大会をやるというところになった。この時分、関西支部とはいわね、関西支社といつてました。米沢吾吾さんが支社長で、山崎、四十一年十月二十七日、第一回関西俳句大会とありますね。



見市六冬氏

山崎 無我夢中でした。投句の整理をやるのに、米沢さんのところで二晩も夜中まで掛かつたことを憶えています。
見市 応募数二五三四句でしたね。
山崎 応募数の句を見たこともなかったし、どうやって待選を出すのかも分からなかったんです。この時分は予選もしてなかったと思います。
山崎 このとき山口誓子さんが「安西冬衡の詩集」という題で話してました。
見市 いい講演でした。
山崎 アルバムに大会句集が載ってますが、その後はずっとこの形ですね。
見市 大阪は大会をする場所がありませんでね。方々尋ね歩いて農林会館なんどこころを探してました……。
岡田 それから昭和四十二年に第三回関西大会終了後に歴史的な座談会が行われたとありますが、どんなことですか。
見市 そのテープは私が保管していますので、いずれ出てきたら文学館に寄付しようと思つてますが、山口誓子と水原秋桜子が、かつての事件以来初めて会って話をしたということです。



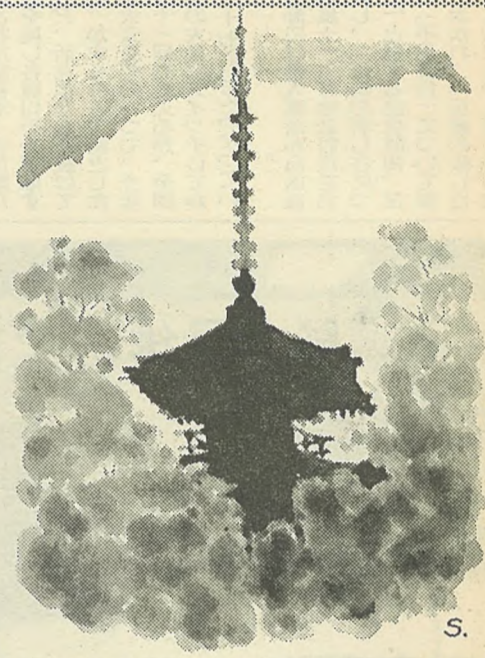
岡田 中村草田男がいて阿波野青歌もいて秋元さんが司会をやっている。写真もあるが、その内容がどこにもない。
見市 これを企画したのは私です、この機会にどうしてもやろうというんで、米沢さんに相談したら、俺にまかせておけよということをやったんです。この原稿を五万円角川に買って頂いた。「俳句」(S43・7)に載っています。ただその内容はちょっとテープとは違ふところがあります。例の草田男の書き込みがありますので……。全部の方に書き込みをしていただきました。

俳人協会会員著書 (◆は逝去者)

著者名	書名	発行月(61年~62年)	発行所	定価の順
阿波野青歌	句集除夜	11月	白夜書房	三〇〇円
山本 古瓢	自註シリーズ山本古瓢集	11月	俳人協会	二〇〇円
山下 古瓢	自註シリーズ山下喜子集	11月	俳人協会	二〇〇円
浦野 鶴城	句集初瀬街道	9月	著者刊	非売品
館野 翔鶴	句集峻嶺の鷹	11月	河内野発行所	二〇〇円
中川 正太	句集睦睦	11月	中川正太郎	二〇〇円
堀 古蝶	句集冬帽子	11月	角川書店	二〇〇円
仲村美智子	句集縹子聞き書	11月	角川書店	二〇〇円
井口 富子	句集今年竹	11月	牧羊社	一七〇〇円
龍 春一	句集ゆづり葉	11月	東京美術	一五〇〇円
松井 利彦	句集つり石	12月	風神社	二五〇〇円
鳥羽 紀子	句集冬帽子	11月	竹頭社	二五〇〇円
上田 篤夫	句集雪の誓	11月	アカシヤ俳句会	二五〇〇円
大島 民郎	自解則句選 大島民郎集	11月	牧羊社	一〇〇〇円
黒田 杏子	あなたの俳句づくり	1月	小学館	一〇〇〇円
斎田 鳳子	句集天の蔵	11月	紅書房	一四〇〇円
徳山 土筆	句集樺	12月	著者刊	二〇〇円
中瀬 喜陽	句集若王子	12月	本阿弥書店	二〇〇円
野川 積子	句集苗	12月	演發行所	二〇〇円
松金 桂女	句集花筏	10月	著者刊	四〇〇〇円
石川 明石	句集苗障子	12月	風神社	二〇〇円
右城 穂石	句集定本上下	12月	四季出版	二五〇〇円
きくちつね	自解則句選 きくちつね集	12月	牧羊社	一〇〇〇円
清水みつる	句集花野	12月	河發行所	ナ
中筋味佐夫	句集わすれ汐	12月	著者刊	ナ
林 仙里	句集雪解川	11月	著者刊	非売品
福原 土王	句集透明な魚	12月	白鳳社	二〇〇〇円
星野 紗一	自解則句選 星野紗一集	11月	牧羊社	一〇〇〇円
松山 足羽	句集鉄橋	12月	本阿弥書店	二〇〇〇円
松本きよし	句集今年竹	12月	百出版	二〇〇〇円
山田みづえ	自解則句選 山田みづえ集	12月	牧羊社	一〇〇〇円
脇本千鶴子	句集てんとう虫	12月	演發行所	二〇〇〇円
上住けい子	句集花林檎	12月	東門書屋	二〇〇〇円
小勝 亥十	句集母郷	11月	高橋舎	二〇〇〇円
小勝 亥十	句集いとし雲	11月	高橋舎	二〇〇〇円
工藤 汀翠	句集いとし雲	11月	高橋舎	二〇〇〇円
小出 秋光	遺句集二月の顔	12月	工藤久子	ナ
高橋 青砂	句集一日仕切り	12月	角川書店	二五〇〇円
谷口ふみ子	句集千峰	12月	牧羊社	一七〇〇円
南部 憲吉	句集霧雷	2月	富士見書房	二五〇〇円
藤崎 久を	句集花明	11月	著者刊	二〇〇〇円
星野 八郎	句集通し鴨	12月	著者刊	非売品
三崎 悦子	句集園栖の笛	12月	著者刊	非売品
宮地 英子	句集花籠	12月	諷詠舎	一七〇〇円
◆谷津 桜冬	句集麦一粒	11月	行人社	一七〇〇円
岩岡 吐雲	句集寒草	12月	雪壇社	一七〇〇円
岡本無濤子	四季選集百句	11月	行人社	二五〇〇円
桂 樟蹠子	東海道俳句の旅	11月	著者刊	非売品
草間 時彦	句集夜咄	12月	四季出版	七五〇〇円
		12月	東京美術	二二〇〇円

高市 友枝 句集糸
小島 梅雨 古俳句と古俳画の墨蹟集
12月 著者刊 非売品
11月 阪南グラフィック 二〇〇〇円

座談会・特集二十五



S.

新幹事の互選

岡田 それから昭和四十一年に、全委員で幹事互選をやるんですが、山崎さんが選挙管理委員になっていきますね。

山崎 二度あったように思います。そのうちの一回は、清水径子さんの家で開票しました。秋元不死男さんも岸風三枝さんもいましたけれど、そして新幹事二十一名が選ばれた。草間さんの名もありませんね。当時の幹事というのは協会の執行部で、幹事長秋元不死男、副幹事長に安住敦、大野林火、会計幹事が岸風三枝というところで協会の運営されていくわけです。

草間 四、五百人ほどの会員だと、この程度のことではやっていけたんですね。今のようになると、あのころが懐かしいような気がします。ただ、秋元さん大野さん安住さんなど、個人的な経済面、労力面の負担というのか、すいぶん働いていただいていたんですね。例えば、俳人協会費の時計なんか、大野さんと福田さんが服部へ二人で買っていくんです。そのころは事務所がないので、ちゃんとしたところへ電話を掛けても相手にしてくれない(笑)。そういうところから始まっているんです。

関西支社懇談会

草間 関西の話を聞いてください。見市 四十二年と四十三年ですか、関西支社で「関西支社懇談会」というのをやったわけです。

これは非常に好評でした。日本海側のかたにも来ていただいたりして、これが現在の関西支社の母体的なものになったんです。別にお指図をいただいたりもなかったわけではないんですが、いっぺん寄り集ってみたいというところ、こちらとしては良い企画だと思つて意気込んでやりました。ところがこれは、派閥を作るというところでストップさせられました。

草間 そのころは、やはり、関西と東京の本部との意思疎通がうまくいってなかったんです。そのいい例が、大会をするのに東京は朝日新聞本社の講堂をたのむような条件で借りられる。ところが関西はそれをしないで、金のかかる会場を借りている。けしからんと。そういう議論が出るんですね。大阪に行つたとき聞いてみたら、大阪の朝日新聞社には講堂がないんです。また、関西が独立する、とかいう話もなきにしもあらずだったんです。それが、後で関西事務所を作り、副会長さんが出るようになりまして、というところになっていくんですが、まだ不足なところがあるかもしれませんね。反省しています。

見市 会場のこともお会いするたびに言うんですけど、それが通じなくて。

新事務所へ移転

出席者(発言順)
山崎ひさを
草間時彦
見市六郎
岡田日郎

草間 ここまで来て事務所がなくてはどうにもならぬというときに、昭和四十五年、松崎鉄之介さんが税務署をやめて、銀座の眼目ビルに税務事務所を持たせて、大野さんが、しめたというので、そこへ割り込んだわけですね。

山崎 としては清水径子さん、後に都筑智子さんが、通いの事務員として勤めるわけですね。



岡田日郎氏

草間 そのうちに、税務上のお客さんより俳句関係のお客さんのほうが多くなつたりして(笑)。松崎さんもういふん迷惑したと思つて、それから法人化へ向かつて、四十七年の一月に、新橋の近く、鳥森ビルに六階に、はじめて俳人協会の事務所を持つことができたんです。

岡田 きたないけれども、大きなソファや立派な大金庫もあつたりして、先生がたが皆気に入って、嬉しくて祝杯をあげましたね。

大飛躍の機

山崎 昭和四十五年の十二月十二日に臨時総会があつて、「十周年記念事業」とともに「法人化のための五百万円募金」と「俳句資料センター」が決められたわけですね。角川さんが唱導されていた俳句センターについては……

草間 明治以後の俳句の資料を集めておこなければ散逸してしまうというので書庫を作ろう、俳句資料センターを十周年記念事業の一つとして作ろうというところだったんです。ただこれまで話が大きくなると思いませんでした。

文学館の建設

山崎 四十八年二月一日俳句文学館建設打合せとありますが、先ほどの十周年記念事業の一つとして、俳句資料センターを作ろうと。それがだんだん固まつて俳句文学館ということになっていった。

岡田 とにかく角川さんが一生懸命に命懸けでやられたのは事実ですね。

草間 角川さんがいなければ出来なかつたことだけは確かです。

山崎 想を練っているうちに大きなついでに、お金で言えば億という計画になっていった。元老の秋篠子先生や風生先生が本気になつて話のつてくるまで、源義さんが命懸けでやっていたことがみんなに分かるまで、時間が掛つたんです。

地鎮祭が行われたのが昭和四十九年十二月二十六日、そして一年四カ月かかって五十二年三月二十一日が竣工式です。



草間時彦氏

岡田 初めは角川さんが自分の土地を提供して書庫を作ろうということから、だんだん話が大きくなって……

草間 そのためには法人化されていなければいけません。方向づけされてきたわけですね。社団法人化するためには岸風三枝さんが非常な努力をされました。

山崎 同時に法人化するためには基本財産が必要ということで募金をすることになりました。会員の総力をあげていろいろ努力を重ねた末に、昭和四十六年の十二月十七日に社団法人の認可が貰えたんです。要するにたくさんある俳句の団体のなかで、一つを社団法人として認める場合、すべての人の俳句が受け入れられるような形になつていなければいけないというところでした。

草間 それと岸さんの話が出てきたその関連では昭和四十七年の最初の俳句カレンダー作りがありましたね。

岡田 これは岸さんが提案して、ほかの幹事からそんなものは売れやしないと猛反対を食つた。岸さんは作れば必ず売れると頑張つて独力で突っ走るので、出来てみたら売れて大好評。

山崎 最初に三千部、直ぐに二千部追加して一部四百部だったんです。

見市 明くる年に古本屋で千二百部の値が付いたら、破らないでとっておけるように翌年から紐がききましたね。

山崎 カレンダーはその後順調に発展して、岸さんの後を草間さん、藤田さんが引継いで、中身も充実し発行部数も増え、俳人協会としては大きな仕事の一つになつていきます。

草間 最初のカレンダーの色紙短冊の染筆者の顔ぶれに、岸さんも入っていました。岸さんは、自分の責任だからと辞退して石塚友二さんを入れたんです。

見市 関西の出来事としては、昭和四十六年、生駒山洗心閣での第一回関西懇親行というのがあります。これが関西の人々をまとめる上で、もつとも手ごたえのある行事でした。三十七名と書いてありますけれども、廊下まであふれて

もまだ人が来るわけですね。とにかく私司会者として「たいま何人分ができました」とか、実況中継をして聞かされたて選をやりました。この会の盛況で内部の結束が固まつたわけですね。

草間 図書整理の責任者を古郷さんがやられるんなる安心だという気運が皆にありましたね。

岡田 ここにいる吉野洋子さんが正式の司書の資格を持っていたということも、一つの、開館していくときの条件になつていまして、俳句専門の図書館、これはもう世界に冠たるものです。

山崎 そうですね。新しい話のほうはまた、機会をあらためて。

(終り)

寄贈者	寄贈品	寄贈時期	寄贈先	寄附金
高市 友枝	句集系	12月	著者刊	非売品
小島 梅雨	古俳句と古俳画の墨蹟集	11月	阪南グラフィック	二〇〇〇円
近衛 綾子	句集花柳	1月	駒草発行所	非売品
品川 鈴子	自解100句選	1月	牧羊社	一〇〇〇円
諏訪 染風	句集黄河	12月	本阿弥書店	二〇〇〇円
高橋 克郎	句集月と雲	1月	河発行所	ナ
田原 秀水	句集人魚	12月	著者刊	ナ
目代月三	句集海樑	11月	著者刊	三〇〇〇円
畑崎 果實	句集離屏風	1月	著者刊	二八〇〇円
吹抜 魚海	句集旅程	12月	春耕俳句会	二〇〇〇円
古館 曹人	句会の復活	12月	角川書店	三〇〇〇円
前田 是空	句集雲の海	12月	扇俳句会	三〇〇〇円
村松 正明	句集小面の哀歌	1月	石田書房	二五〇〇円
山本 杜城	青歌句集「春の鷹」研究	2月	富士見書房	二〇〇〇円
坂田はま子	句集甲斐駒	1月	鷹俳句会	一五〇〇円
白根 栄一	句集花ざぼん	11月	著者刊	ナ
田崎 賜忠	句集花ざぼん	11月	著者刊	二〇〇〇円
津根元 潮	写俳集風華章	11月	著者刊	ナ
高橋友風	友風子定本句集	8月	高橋友蔵	二六〇〇円
野上 飛雲	句集町と島	1月	かまぐら春秋社	二〇〇〇円
細見 綾子	句集存問	12月	角川書店	二五〇〇円
村上 三良	句集秋茄子	12月	玉藻社	一〇〇〇円
岡本 春人	句集集はれんたいん	2月	連句かつらぎ後援会ナ	一〇〇〇円
勝本 静波	句集雉子車	2月	著者刊	非売品
吉良ゆき子	句集雪	2月	東京出版	二七〇〇円
所 信子	句集冬銀河	12月	著者刊	ナ
土橋 蘭香	句集養笠	1月	白鳳社	二〇〇〇円
中川 鼓朗	句集彩鳥	2月	著者刊	非売品
西田 兼三	句集存分	2月	四季出版	二〇〇〇円
波多野寿子	句集麦笛	2月	四季出版	二〇〇〇円
八木林之助	自解100句選	3月	牧羊社	一〇〇〇円
山崎 冬華	句集結晶	3月	河発行所	二五〇〇円
秋永 放子	句集随処の雲	2月	ほおすき書籍	二五〇〇円
浅井青陽子	句集霞城春秋	10月	著者刊	ナ
天野ゆき子	句集梓山	3月	風神社	二五〇〇円
木村 長月	句集はしり鱈	11月	著者刊	一五〇〇円
杉山 豊女	句集秋さくら	2月	東京美術	二〇〇〇円
千田 一路	文集潮鳴りの中で	1月	橋本唯文堂	一六〇〇円
辻 桃子	句集花	3月	牧羊社	一七〇〇円
和久田隆子	句集露芝	4月	牧羊社	一七〇〇円
石塚 友二	句集玉繩抄以後	2月	竹頭社	三〇〇〇円

3月9日寄贈図書収蔵済より(次回へつづく)

俳句文学館図書室内

閲覧時間 午前十一時～午後四時
入館料 水曜・木曜
入館料 百円
複写料 一枚五〇円(複写申込は三時まで)
◆コピーサービス 在庫俳句や在庫書名を明記し、ページ数または論文名等を指示していただければ、そのコピーをお送りします。コピー料は一枚五〇円の割で、他に送料を加えた請求書を同封致しますので折り返し送金下さい。
◆俳人協会の新刊句集は、できれば三冊当館へ、一冊は関西支社へご寄贈願いたくようしくご協力下さい。

高濱虚子の研究書・資料

堀 古蝶

水原秋櫻子「高濱虚子」
 (昭27、文藝春秋新社)による
 虚子は「花鳥諷詠」を
 風月に心を寄せてゐる。そ
 うして日本の国家が、有用な
 学問事業に携わつてゐる人々
 の力によつて、世界にいよいよ
 大地歩を占める時が来たなら
 ば、日本文学もそれにつれて
 世界の文壇上に頭を擡げて行
 唱へ
 「吾等は天下無用の徒では



水原秋櫻子著「高濱虚子」から山本健吉著「子規と虚子」まで、虚子に関する研究書は、枚挙にいとまがない

あるが、しかし祖先以来伝統
 的の趣味をうけ継いで、花鳥
 風月に心を寄せてゐる。そ
 うして日本の国家が、有用な
 学問事業に携わつてゐる人々
 の力によつて、世界にいよいよ
 大地歩を占める時が来たなら
 ば、日本文学もそれにつれて
 世界の文壇上に頭を擡げて行
 唱へ
 「吾等は天下無用の徒では

虚子全集(昭48)50、毎日
 新聞社、ほか)に集録されて
 いる。そのうち単行本として
 は、俳句観をまとめた「俳句
 読本」(昭16、日本評論社、
 昭47、新樹社、角川文庫)
 が、また明治末から大正初め
 にかけてのホトトギスの主要
 作家を論じた「進むべき俳句
 の道」(昭34、角川書店、昭
 47、新樹社)が、正岡子規を
 描いた小説「柿二つ」(大
 4、新橋堂)、「虚子自伝」
 (昭36、朝日新聞社)その他
 がある。

虚子研究の書は枚挙にいと
 まがないが、富士正晴「高濱
 虚子」(昭53、角川書店)、
 大野林火「高濱虚子」(昭
 24、七洋社)、山本健吉「
 高濱虚子」(昭51、河出書房
 新社)、大岡信「子規・虚
 子」(昭51、花神社)、川崎
 展宏「虚子から虚子へ」(昭
 58、有斐閣)などがある。
 虚子の五女・高木晴子の
 「遙かなる父・虚子」(昭
 58、有斐閣)は、虚子の家庭
 人としての日常を多くのエビ
 ソードで語つてゐる。
 虚子の俳句、俳論、随筆、
 小説など全作品は「定本高濱
 虚子」(昭58、角川書店)に
 収められてゐる。

かまくら探勝 全国俳句大会

ドイツの建築家ブルーノ・
 タウトが冬の横手を訪れ、か
 まくらに心を奪はれた。その著
 書で絶賛している。なんと素
 晴らしい美しさであろう、私
 はこんな美しいものを見たこ
 とがない……と。今年も暖冬
 による雪不足で、伝統行事の
 かまくら探勝全国俳句大会が
 懸念されたが、折よく
 降り積った雪に例年と変わりな
 く二月十六日、横手市農協会
 館で開催されることとなつ

た。
 句会を主催する横手かまく
 ら吟社(会長 京鹿子)で活
 躍した若林美大野氏によって
 創始された結句会、会員数八
 十名を擁し各種句会を開催す
 るなど、活発な活動を続けて
 いる。かまくらを主題とした
 俳句大会もその一つで、今年
 で三十一回を数えるが、全国
 規模の大会に「スイッチ」か
 らは十七回目にあたりとい
 る。



記念講演をする神蔵器氏

講師には俳人協会から派遣
 の「風土」主宰神蔵器氏をお
 迎えし、「俳句の新しいこと
 について」と題する記念講演。芭
 蕉の「不易流行」について懇
 切に説かれ、「伝統の厳しき
 に常に拮抗しつゝ新しい俳句
 を目指す」とする主宰の姿
 勢を披露され聴衆の関心を
 集めた。
 出席者二百八名、一人三句

句会を主催する横手かまく
 ら吟社(会長 京鹿子)で活
 躍した若林美大野氏によって
 創始された結句会、会員数八
 十名を擁し各種句会を開催す
 るなど、活発な活動を続けて
 いる。かまくらを主題とした
 俳句大会もその一つで、今年
 で三十一回を数えるが、全国
 規模の大会に「スイッチ」か
 らは十七回目にあたりとい
 る。

授句、当日選者に神蔵器師の
 ほかに「風土」同人の諸氏、岩
 手県から出席の山下碧水・堀
 古蝶が小林輝子があたり、集
 計結果得点上位者より秋田県
 知事賞、横手市長賞等盛沢山
 な賞が授与された。その後懇
 親会に移り、午後五時滞りな
 く終了した。
 神蔵器特選(三句)
 かまくらに裏口はなく灯し合
 ふ 菅 梨風
 かまくらとなる雪を積み上げ
 てゆく 手塚 金魚
 かまくらに言葉足らぬは手招
 きす 森屋けいじ
 (山崎 雅業)

事務局から
 ◆俳人協会の業務は午前九時
 半から午後五時半までです。
 ◆休みは木曜日です。
 ◆お問い合わせやお申し込み
 は、なるべく文書でお願ひ致
 します。
 〒100 新宿区百人町3-18-10
 振替 東京 6-1273

事務局長賞等盛沢山
 な賞が授与された。その後懇
 親会に移り、午後五時滞りな
 く終了した。
 神蔵器特選(三句)
 かまくらに裏口はなく灯し合
 ふ 菅 梨風
 かまくらとなる雪を積み上げ
 てゆく 手塚 金魚
 かまくらに言葉足らぬは手招
 きす 森屋けいじ
 (山崎 雅業)

事務局長賞等盛沢山
 な賞が授与された。その後懇
 親会に移り、午後五時滞りな
 く終了した。
 神蔵器特選(三句)
 かまくらに裏口はなく灯し合
 ふ 菅 梨風
 かまくらとなる雪を積み上げ
 てゆく 手塚 金魚
 かまくらに言葉足らぬは手招
 きす 森屋けいじ
 (山崎 雅業)

事務局長賞等盛沢山
 な賞が授与された。その後懇
 親会に移り、午後五時滞りな
 く終了した。
 神蔵器特選(三句)
 かまくらに裏口はなく灯し合
 ふ 菅 梨風
 かまくらとなる雪を積み上げ
 てゆく 手塚 金魚
 かまくらに言葉足らぬは手招
 きす 森屋けいじ
 (山崎 雅業)

旧暦の賀詞交歓会

宮城支部講師に石田氏招き

宮城支部恒例の旧暦による
 新春賀詞交歓会は二月十一日
 (建国記念日)午後一時より
 夕方六時迄仙台市東北電気会
 館で七十名の出席、本部より
 講師として石田勝彦氏を迎え
 盛大にしかも和やかに開催さ
 れた。
 第一部俳句会は半崎墨子
 氏の司会、門脇白風支部長よ
 り開会挨拶と講師の紹介があ
 り、石田勝彦講師から「俳句
 というもの」と題し、句の平
 明、花鳥諷詠と季節との関係
 など、石田勝彦・宮城風生・
 斎藤茂吉等の諸先生の作品を
 紹介し乍ら豊富な知識高邁な
 ご見識を以ての俳論を展開さ
 れ、俳句の根本に触れること
 話があり、参加者一同多大な
 る感銘を受けた。
 句会を講師選、互選、佐治
 英子氏の司会によつて進めら
 れ、大町寛子・渡辺達恵・高
 橋浦亭氏らによる披露、講師
 より入選句の選評、講師入選
 句は本部から、互選高句句に
 は支部よりそれぞれ賞品が贈
 られた。蓬田紀枝子支部長
 より講師への謝辞があった。
 当支部は六十二年度は幹事
 の改選期に当り次回総会(六
 月予定)に新幹事(案)を民主
 的に推せん提案する必要がある
 から、半崎墨子・山崎晃雨・山田
 桃児・佐藤明日香・及川橋溜
 ・石垣純子の六氏が選考委員
 に選ばれた。
 第二部賀詞交歓会は、山田
 桃児氏の司会、副支部長梅沢
 一穂氏のご挨拶、副支部長古
 内一吐氏の乾杯音頭で懇親に
 入り、短冊交換、奥田七橋氏
 十八番の手品、山田桃児氏の
 「さんざん時雨」、高橋浦亭氏
 「大黒舞」、プロ顔負けの出
 物で交歓会の雰囲気は最高
 潮に盛り上った。石田講師の
 短冊を射止めた本日一番の幸
 運者奥田七橋氏の音頭で万才
 三唱、閉会の辞が述べられ、
 来る五月の俳人協会二十五周
 年東北大会(仙台)が盛大に
 開会されるよう念願しつつ総
 ての行事を終了した。

花の一句
 緑の一句
 赤松 蕙子
 鷹羽 狩行

山又山山桜又山桜
 阿波野青歌
 「吉野」の前書があるの
 で、一目千本といわれる見
 晴らし台から山桜の緑のさ
 まを詠ったのだらう。
 しかし一句の調は、一
 か所に立ち止まって見えた空
 間の広さではなく、行けど
 も行けども山桜また山桜と
 いう時間の長さを示すよう
 みずみずしい緑が眼に浮
 かぶ句では、鎌田田さんの
 「ゴルフボールが解りさ
 う」という「花淡」の句。
 でも季節そのものすばり
 の句といえは、爽雨先生の
 写真眼に映った、この春草
 の句。
 深々とした緑が温く萌え
 る。
 「堆し」はその心象であ
 る。
 あがつて、感動がそのまま
 伝わってくる。
 踏音という言葉がありな
 がら、それにとらわれない
 で、春草としてゆつくり踏
 む。所どころに盛りあがる
 春草は、首肯が大ぶり。
 「堆し」はその心象であ
 る。
 皆吉爽雨

俳人協会創立二十五周年記念 静岡俳句講座

俳人協会創立二十五周年記念
 静岡俳句講座
 ◆俳人協会以外の方にも自由に受講できます。
 期間 5月29日(金)31日(日)の3日間
 会場 静岡市黒金町五十一、静岡県勤労者総合会館
 六階ホール(道順)国鉄静岡駅北口より西へ
 徒歩七分、国道一号線沿い、駐車場有。
 定員 二〇〇名
 申込 4月1日～5月20日
 会費 (全期間) 一五〇〇円 (協会員) 一〇〇〇円
 (一日券) 一〇〇〇円 八〇〇円
 ★俳句講座費
 全期間申込者に対し、第一日(講座終了時)に雑詠一
 句募集、最終日に入選発表、授賞を行います。
 ★申込先・方法など
 〒420 静岡市瓦町七五 本会
 俳人協会静岡俳句講座事務局
 電話 平日昼間 〇五四二一五五(八八三)
 休日夜間 〇五四二四四(四八三五)
 ●会費同封(一日受講は期日を明記)
 ●協会員は姓号の肩にその旨、明記ください。
 ●現金書留でお申し込みください。
 ●受講券をお送りします。

時間	講師
13:30-14:45	第一時限
15:00-16:15	第二時限
17:30-18:45	第三時限

九月に全国俳句大会 第26回 投句締切は5月25日

来る九月十二日(土)、東京有楽町の朝日ホールで、開催予定の全国俳句大会は、林委員長の下、着々と準備を進めている。

当日の世話役の方々も、およそ次のように予定されている。

委員長 井林翔

講演は、東大教授の久保田淳先生に決まった。どういってお話を伺えるのか、いまから楽しみである。

副委員長 渡辺昭・倉田春

委員 大牧広・上谷昌憲・能村研三・桑海子・北川英子・淵上津・北村仁子・松村武雄・安居正浩・中原道夫・倉田素香・波羅綾子・ながさく清江・井上春子・黛執・桑

新春俳句大会に90人 2月15日山形県俳人協会

去る二月五日(一)三時より山形市湯殿山神社参集殿で開催、二八八・六五四句の作品が寄せられ、九〇名に近い出席で満堂は溢れた。然も本年の各選者の選評と所感、殊の外熱意に富み、且つ俳句の深遠なる核心に就いて語り、参会者一同の志気とみに高揚せしめらるるものがあった。左記は各選者の特選作。

◆細谷鳩吉選
里神楽おかめにありし喉ほど
若生彦太郎

◆行方寛次郎選
初市に買ふ組板の白さかな
田村 頼子

◆土屋巴浪選
煤灰ひの頭よりはたきけり
小林 茂

◆長谷川敏子選
お降りたすけも積りて洗車



その日も例月のように、東京行ひる。生涯の思い出となる卒業旅行にさゆつたりと座った。大阪始発である上は何よりも早朝の清潔感がよい。京都を過ぎてしばらく経つと、そろそろ句帳を膝に懸外へ目をやる。いつもの事ながらこれらが今日の句会に取り組み時間である。

いであつて時、不意に車内放送が流れた。

「皆さん、ただいま左に富士山が見えています。今日のように美しく眺められるのは珍しい事です。」と車掌の声を聞いた。

ふつと我にかえつて眺める目に、冠雪の富士は全く美しい姿で輝いてた。

常任幹事を増員 七十数人で句会も

岡山協会も定例総会

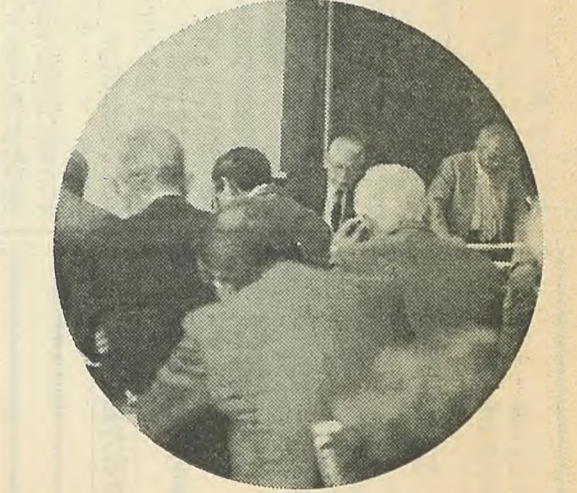
岡山県俳人協会は二月十日、岡山市の県職員会館三光荘において、今年度の定例総会を行った。

井上杉副会長の挨拶に続き、出席者数と委任状を合わせて総会の成立をみて、児仁井しどみ常任幹事を議長に選び、角南星燈常任幹事を、六十一年度の事業報告と決算の報告を行い、また今年度の事業の計画と予算案を可決した。

今年度は役員の変更の年にあつたので、審議の結果、幹事を増員し、七十数人で句会も開催されることになった。

副会長の挨拶に続き、出席者数と委任状を合わせて総会の成立をみて、児仁井しどみ常任幹事を議長に選び、角南星燈常任幹事を、六十一年度の事業報告と決算の報告を行い、また今年度の事業の計画と予算案を可決した。

今年度は役員の変更の年にあつたので、審議の結果、幹事を増員し、七十数人で句会も開催されることになった。



当日句 (角南星燈)

ねぶか汁一人欠ければひとりなる
松岡 参三

雪嶺をそびらに牛の寝葉十す
丸尾 助彦

鍵開ける間も咳こぼし夜の客
藤原 滋章

結び目の焼け残りたることごと
植月 泰子

綿菓子子の綿の屑とぶ初大師
児仁井しどみ

棹上げる先に城あり諸子釣
心光 一歩

不器用に世を渡り来て歩踏み
太田 泰水

日脚伸び玄関に置く車椅子
那須 茂子

長居公園植物園吟行
五月十七日(日)午前十時
集合 長居公園植物園入口(地下鉄長居下車東へ約三百米)園内自由吟行(主花は 薔薇・芍薬・杜若・チューリップ・つじ・ジャーマンアイリス他)費用 不要
定員 一〇〇名(参加は俳人協会員に限る)
句会 午後一時三十分締切 観目三句
賞 特選八名
句会会場 植物園事務所内講習室
出席者 後藤比奈夫・浦野芳南・大橋敦子・森田峠
参加申込 四月二十日までに往復葉書(返信に自宅宛名記入)で、俳人協会関西事務所宛申し込み下さい。返信面を入場券としてお送りします。満員になり次第締切。◆協会員以外の方は入園料を当日払われても句会場が狭いため句会はご遠慮下さい。◆雨天決行
〒550 大阪市西区新町1-15-18
サンタンビル六〇一号
社団法人 俳人協会関西事務所
TEL 〇六五四二-〇四三二

創刊号物語

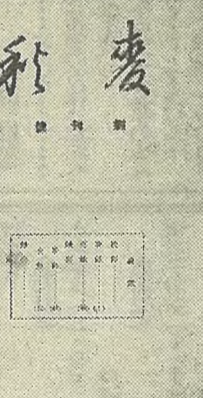
素也

「麦秋」は昭和十三年六月、青木稲女を主宰として発行された。誌名は稲女が「私は麦秋の季節が一年中で一番好きだし、歳時記にも、松林のむこうに見える麦の秋。稲女。ついでにのがついているから麦秋にしたらどうかしら」と、提案したところから、提案したと山田琴が昭和三十年に回顧している。

創刊号は、白表紙に余田白雨の題字と目次を載せ、十六頁で順序に稲女選の雑詠一四三句(五一名)と、稲女近詠十句、稲女選課題詠が一頁二段組、「麦秋」三十一句(二十七名)、「金魚」三五句(二十五名)と後記で終わっている。

定価は一冊拾銭、発行所は大阪市港区九条中道、印刷所は奈良県丹波市川原城で、投稿規定に、用紙、半紙を二つ折と墨書のと、とあつて隔世の感がある。句会も雑詠欄もほとんど男性が占めていた時代に、

稲女の提案で命名



今年6月に50周年

「素也」の正流を汲んで「写生」に痛むほど輝く季節となり、此の度、皆様の御行きの度、思ひます。ささやかな雑詠ですが、何卒「麦秋」が健康に成長致しました事、二十年來、此の道を辿つて来ました私に、有季定型の指導方針を鮮明にして、石井政一

昭和二十二年六月に創刊五十周年を迎えるが、青木稲女、山田琴、折岡泊露と歴代主宰が病没後、発行所を天理市田町二二一六の編集担当堀田ひさ江方に移し、藪内柴火が主宰として「麦秋集」、ひさ江が「稲穂集」の雑詠欄を指導している。

四十周年記念として昭和五十三年に合同句集を上梓し、四十七年、念仏寺に稲女、五十六年、淡輪遊園地にひさ江、六十年、長居寺に泊露、柴火と、同人、誌友の手によりつて句碑を建て団結を示した。

創刊半世紀を歩んで来た今日、稲女主宰の創刊号挨拶の精神を基に、秘りある俳句に「麦秋」をもちあげ一層の躍進を誓うものである。



ひかり360号

岡本 差知子



毎月一回、東京句会へ出席してはじめて十五年。一回も休まなかつたとして百八十往復、過ぎ去つた年月の思いがしきりに湧く。

今、ひかりで一人東京へ向かつている私。こんな言葉は無かつた私。全くの病弱で幼い頃は市電にさえも満足に乗れなかつた私は、今なら地下鉄で十分なかめ所へ、人力車で行けば行けなかつたのである。

人の事を思う。一人は大病院の院長夫人となり、一人は製薬会社の重役夫人として、二人共に今は思うままの余生を楽しむ幸せな未亡人である。そしてあの一人はここに、俳句に身を投じているのである。「ひかり」の車席に揺られているのである。女の一生とは何と不思議なものであろう。など思いながら硝子にうつ自分の顔を、まるで他人を見る思

第6回 日中ぼたん俳句大会
どなたでも参加できますので、お誘い合せの上、お出かけ下さい。

日時 4月27日(月) 午前十二時～午後四時(晴雨にかかわらず) 九時から入場できます

会場 上野・東照宮ぼたん園(上野公園内)

出句 観目二句 十二時三十分締切

会費 無料(会場受付にて入場券と投句用紙を授渡します)

賞 黒田杏子・葛浦あや・鷹羽狩行・松崎鉄之介
日中協会ぼたん大賞 俳人協会ぼたん大賞他
主催 社団法人 日中協会
後援 社団法人 俳人協会

第22回 関西俳句大会
日時 四月十一日(土) 午後二時
会場 なにわ会館4階
(近鉄上本町駅上六分交差点より南東へ五分、又は地下鉄谷町線丁目より五分)

講演 「万葉のこころ」 犬養 孝

▲なお当日投句は、当季雑詠一人一句・締切午後一時 会費無料。(誓子・青歌・時彦・比奈夫・敦子選) 記念品進呈

主催 社団法人 俳人協会
後援 朝日新聞社

第6回 日中ぼたん俳句大会
どなたでも参加できますので、お誘い合せの上、お出かけ下さい。

日時 4月27日(月) 午前十二時～午後四時(晴雨にかかわらず) 九時から入場できます

会場 上野・東照宮ぼたん園(上野公園内)

出句 観目二句 十二時三十分締切

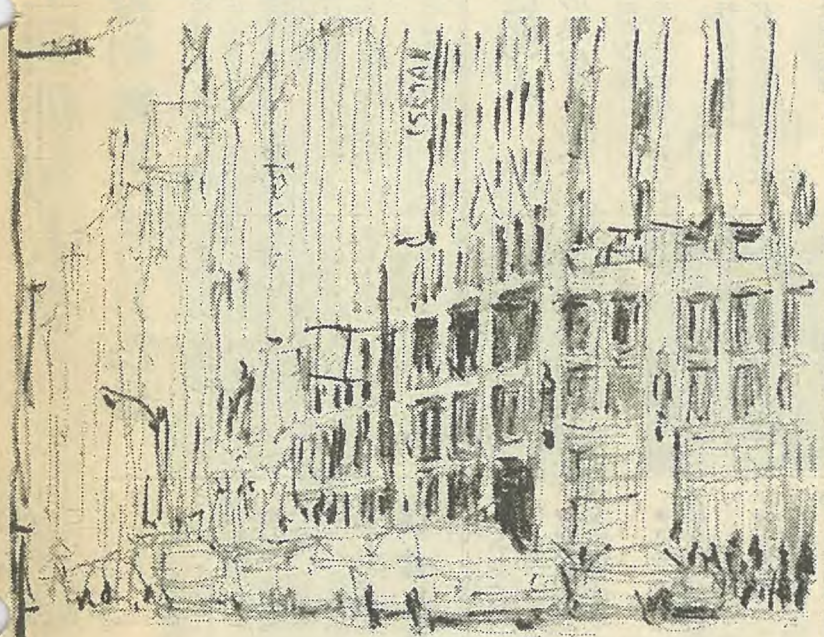
会費 無料(会場受付にて入場券と投句用紙を授渡します)

賞 黒田杏子・葛浦あや・鷹羽狩行・松崎鉄之介
日中協会ぼたん大賞 俳人協会ぼたん大賞他
主催 社団法人 日中協会
後援 社団法人 俳人協会

東京散歩

絵と文・丸山しげる

〈4〉新宿



新宿三丁目

5m

江戸日本橋から四里の高井戸村が甲州街道の起点宿であったが、遠すぎるというので元禄一〇年、宿場とされた。高井戸宿に対して「新しい宿場」で新宿。東京行進曲の一節「いっそ小田急で逃げましょか」の小田急が開通してから急に発展した。その小田急の出る西口は、専売局の工場と、東京市の浄水場があった。全く新しい一割、晴れた日は富士山が眺められた。電車といえは、京王線は新宿三丁目から出ている。その三丁目の角は、昔「はていよ」というデパート、昭和九年頃に倒産したが、その整理大出の時は怪我人が出る程の騒ぎだったという。後に隣の伊勢丹が買収、今の姿となった。昔の宿場の名残りの赤線があり、年輩の方はご承知

だが、その宿場女が死ぬと投げ込まれたという成実寺がすぐ近くにある。今の「丸井」の位置に昭和初期「帝都座」があり、地下は「モオミ」というビヤホール、毎週金曜日が黒ビールの日と決まっていた。たしか一杯三十銭くらいだったと思う。「帝都座」の上にはダンスホールの「テイト」があった。二十才未満は断断、坊主頭で背広を着用、よく潜水した。ホールの中、中央に小さな噴水があり、パンドマスタは谷口又士という、トロンボーンの名手だった。今でも「泉」という季節に出会って、トロンボーンが聞こえて来るような気がする。四月ともなると、新宿御苑の桜が咲く。都内で静かに桜を満喫出来るのもここしか無い。

の所作の如くに散る落葉、因みに主室中島双風の句碑は、近松記念公園内に近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松記念公園内に近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

の所作の如くに散る落葉、因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

の所作の如くに散る落葉、因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

の所作の如くに散る落葉、因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

は木下四郎が受賞した。因みに主室中島双風の句碑は、近松

夏期指導講座委開

三月十六日、俳句文学館で今夏開催の第10回夏期俳句指導講座の委員会が開かれた。開会に先立ち草間理事長から村田修氏が図書委員長に就任、後任として里川水章氏が理事会で承認された報告があった。澤木会長、村田氏、里川氏の挨拶の後、討議に入

日程は、七月十七日から三日間、会場は俳句文学館。講座の進め方は、過去九年間に定めておられ、内容で新しい面を加味することを確認、講師陣の選定等を行った。昨年の反省会でも推された鷹羽行氏の内話も踏まえて、里川氏の挨拶の後、討議に入

吉野氏に 知事表彰

本協会評議員、吉野義子氏(モ)は、愛媛県果敢足百を記念して創設した、県民福祉の増進や行政に特に関与のあった人への第十五回知事表彰者として、教育文化面で、俳句結社「星」を通じて功績をあげたとして表彰

二月二十二日、尼崎市教育委員会・朝日新聞阪神支局後援に依り、尼崎市立労働福祉会館に於て、中島双風が主宰する、俳句「四季」の記念大会が催された。第一部(午前)は、年度賞応募作品の成績発表、永年賞に記念品が贈られ、午後には記念式典を兼ねての祝宴。

四季20周年で記念大会

双風句碑も建立

二月二十二日、尼崎市教育委員会・朝日新聞阪神支局後援に依り、尼崎市立労働福祉会館に於て、中島双風が主宰する、俳句「四季」の記念大会が催された。第一部(午前)は、年度賞応募作品の成績発表、永年賞に記念品が贈られ、午後には記念式典を兼ねての祝宴。

双風句碑も建立

二十五年度の歩み

協会創立二十五周年記念出版の二つとして、さきほど刊行された「二十五年度の歩み」(フォト・アルバム)と「二十五年度歩み」について、多くの方から読後感が寄せられています。幾つかを、ご紹介いたします。

二十五年度歩み(清水 匡子)

「二十五年度の歩み」拝見して、なつかしい先生方を偲んだ。だいたいたしてあります。

併人協会 会員句集刊行

次の方々が物故されました。謹んで哀悼申し上げます。

昭和61年 貝奇風 小林銀女(12・9)

昭和62年 夏草 柳沢子雲女(1・1)

植松さわ女(1・28) 若葉

渡辺風来子(3・5) 若葉

多田富美子(3・8) 若葉

渡辺志水(3・12) 櫻・鶴

併人協会創立25周年記念 九州俳句大会

日時 昭和62年5月31日(日)開場12時半開会午後1時半

場所 都久志会館大ホール(福岡市中央区天神四一八)

講演 一歳時記の見直し 鷹羽行行

選者 岡本陣・伊藤てい子・伊藤通明・井尾望東・小原善々子・児玉南草・向野楠葉・鮫島春樹子・西谷孝・野見山ひふみ・林十九枝・吉富平太郎(順不同)

◆協会員の参加自由。参加者全員に後日入選作品集送付。主催者団体の併人協会

↑会員懇親会(午後5時半開会・会場「カ」1階) 福岡市中央区天神四一八

↑都久志会館の左隣。会費1500円。申込4月末日まで八力まで大会事務局

〒815福岡市南区屋形原3-31-24 電話092-556619

併人協会創立25周年記念 中国俳句大会

日時 昭和62年5月31日(日)受付・12時30分より 午後二時

会場 中国新聞ビル7階大ホール(広島市中区土橋町七一)

投句 当日受付二句(未発表・一人一組に限る) 締切午後一時

投句料 協会員 不要 一般 500円

講演 「俳句の国際化」 佐藤和夫(早稲田大学教授)

選者 松崎鉄之介・石井青歩・林徹・藤井直子・宮原双馨・赤松意子・梶井裕

◆懇親会(午後四時) 会費1400円

問合せ 併人協会広島支部事務局 千田島市中区白島九軒町二〇一四 結城一雄 電話 〇八二二一三三三七八

「自註現代俳句シリーズ」より抜粋

第5期「伊藤敬子集」より

春惜しむいろをかがりて浅間かな

あさま 昭和五九年作

浅間山はやさしい姿をしている。島崎藤村の好きだった山。しかし第一には恵那山を好んだ。朝夕見上げた山だったから。どちらも相似点がある。

四月刊 定価二〇〇〇円 送料二〇〇〇円

◆申込先 千原東京都新宿区百人町三二一八一〇 社団法人 併人協会 電話 〇三三三七七 六六二二 振替 東京 六一二七三